

読者の皆さま
調査室にご意見を
お寄せください

monthly
No.2 1
ランコ

平成 18 年 2 月 10 日発行
アイヌ文化環境保全対策調査室通信
アイヌ文化博物館ホームページ RANKO 月報
http://www.ainu-museum-nibutani.org
環境調査室連絡先
TEL (01457) 4-6011
FAX (01457) 4-6012

住民説明会や聞き取り調査において寄せられた意見・対策案

現在、アイヌ文化環境保全対策調査委員会では3つのワーキングチームが設けられています。史料検討ワーキングチーム、生態系遷移検討ワーキングチーム、地域生活影響検討ワーキングチームの3つです。その内、地域生活影響検討ワーキングチームでは二風谷ダムによって地域の方々にとどのような影響があったのか探り、平取ダム建設によって生じるであろう影響を予測する手がかりとし、また二風谷ダム建設以前の状況を知る目的で、2005年10月31日から11月4日までの期間「平取ダム建設等による影響を考えるための聞き取り調査」を行いました。芽生・豊糠の住民説明会なども行いました。調査は二風谷ダムを中心に 長知内から荷負、二風谷、小平から紫雲古津、門別町富川の4地域で行いました。二風谷ダム上流の荷負から長知内地域では2003年の台風10号の際に被った農業被害があったこと。沙流川河口の門別町富川地域ではダム堤体から下流に流出したヘドロによる漁業への被害が深刻であること。二風谷地域ではダム建設後、沼がなくなったことによりアイヌ文化継承に必要なガマやオヒョウなどの生活用具の材料、あるいは食用植物が少なくなったこと等の声が聞かれました。また2003年の台風10号を受けて、早急に平取ダムの着工を望む声や、平取ダムは要らない。ダムを造るなら下流の堤防を強化して欲しい。といった声も聞かれました。

伝統工芸について

二風谷ダムができてからは、二風谷の近辺にオニガヤは生えていない(二風谷)
昔と違い今(2005年)ではオヒョウも残っているところが崖の上など場所の悪い所になってきているので、若い人たちは無理をしても採って来られるが、年を取った人たちだと大変だ(二風谷)

魚・魚道について

昔はサクラマスやサケもいましたが、二風谷ダムができてからは少なくなり、二年前の水害からは全然ない。ドジョウもいない。
ドジョウ・カジガがいなくなってしまったのは川から採石をして川に魚の隠れ家になる石が無いからではないか(豊糠)
二風谷ダムの魚道を根本的に改善しないとサクラマスの保全につながらない。ずっと上流から、なだらかな斜面の魚道に二風谷ダムも平取ダムとあわせて改善して欲しい(芽生)

住民からでた意見

河川管理・ダムについて

排水ポンプをつけ内水氾濫の水を本流に排出してほしい(紫雲古津・富川)
ダム建設をするときに、反対・賛成の意見を取り入れダメなところはなくするようにすれば良い(富川)
山の奥に植林をして森林保全と保水力と土砂流出を防いでほしい(貫気別・富川)
小川に魚が入れない工法はやめて欲しい(富川)

シカ・クマその他の動物について

現在、芽生から振内、豊糠から岩知志の間はシカの溜まり場でダム予定地にもたくさんいるので、ダムができたならそのシカたちは芽生の方に来るのではないかと。芽生全体を金網か柵で囲って欲しいくらいだ(芽生・豊糠)
シカはサイレ ジ(発酵資料) トウモロコシ、豆などを食べに来る。クマは冬眠するまでの活動期にデントコーンを食べに来る(芽生)

山菜採りにについて

昔は川原に今より太いギョウジャニンニクがあった。現在は採石で大きい石がなくなり川の勢いがすごく早く、そもそも川原が無くなった(豊糠) 他地域から山菜を採りに来る人たちは山菜が生えるまで長い年月がかかるのに根こそぎ採ってしまう。自分たちの保存の分にも不自由してる(豊糠) 今では遠くまで行ってもなかなか山菜がないので自分で食べるため庭に植えている(貫気別) 1996年以降河畔林がまったく無くなり川原の川岸も変わってしまったので天恵物を手にする事ができなくなった(二風谷)

調査の中間報告書を読んだり、調査委員会の会議を傍聴したり、イオル大学を受講して思ったこと、会場で言えなかった意見を、メールやFAXにて受け付けております。

2月28日までにメール・FAXでアイヌ文化環境保全対策調査室まで。

FAX 番号 (01457)4-6012 メールアドレス sisirmuka@dream.ocn.ne.jp

寄せられたご意見は、できるかぎり報告書に生かします。返信は行えませんのでご了承願います。

シシムカ・イオル文化大学第 15 回講座に 100 名近く参集

環境保全対策等の提示に向けて活発な論議

2月5日(日)に、「シシムカ・イオル文化大学第15回講座」がふれあいセンターびらとりで開講されました。テーマは「沙流川とアイヌ文化 歴史・現状・展望 【その3】」です。いよいよまとめの段階に入った調査の状況をお知らせするとともに、これからの文化環境保全のあり方について活発に意見を語り合えた場になりました。全体質疑と意見交換では、会場から調査全体に対し、「チノミシリが大事というけれど、チノミシリというものがどういうもので、なぜそこにあるのか、などを含めどう大事なのか。外部の者にもわかるようにまとめてほしい」という意見がでました。この意見に対し、ウタリ協会平取支部役員は「地元ウタリはチノミシリを祖先から伝えられた大事な場所だと思っています。これをどう受け継いでいったら良いか、今後ウタリ協会を考え決めていきたいと思います」「祖父が残してくれた大事なもの。私はチノミシリを守っていきたい」と、会場の意見を真摯に受け止め、返答しました。会場から、「今後イオル大学だけではなく、もっと意見を言える場を増やしてほしい」、など、他にも様々な意見が出ました。このとき出た意見をアイヌ文化環境保全対策調査委員会で話し合っています。会場に来てくださった皆様、ありがとうございました。

次回大学 3月19日(日)シシムカ・イオル文化大学 第16回講座・沙流川歴史館にて
午後1時半開講です。

沙流川水系河川整備計画変更が検討されています

2005年12月17日と19日に室蘭開発建設部で行った「沙流川水系河川整備計画【変更】(原案)についての説明及び意見聴取会」に出席しました。開発局は沙流川の洪水を防ぐために新しい工事をしており、河川整備計画の具体的な案を検討しているところだそうです。主な案は3点あります。

二風谷ダムと平取ダムの相乗作用により下流地域の洪水被害軽減を図るとともに、流水の正常な機能の維持を図る。さらに利水の補給・発電(二風谷ダム)を行う。

大雨になりそうな時は二風谷ダムにためていた水を事前に放流し大雨の水をため洪水を防ぐようにする。

河道掘削は、平取ダムより下流の沙流川において工事を施工する。堤防は、断面積が不足している箇所を完成させる。漏水の危険性がある箇所等について、必要な安全性を確保する。低水路の河床変化や砂州の発達、治水上の支障となった場合には、適切な措置を講ずるものとする。出水による土砂堆積及び流木堆積など流下能力の阻害箇所については河道掘削等を行う。

* 詳しい記述は北海道開発局のホームページを参照ください。

北海道開発局・室蘭開発建設部ホームページ URL <http://www.mr/hkdmlit.go.jp/>

調査成果の説明会・お知らせ

2月17日(金)~18日(土)の平取町本町・貫気別・振内にて説明会を行います。説明の内容は、3年間の調査成果と対策案の概要です。時間・場所は下表のとおりです。皆様の参加をお待ちしております。お誘いあわせのうえお越しください。

本町・貫気別・振内説明会・日程

2月17日(金)18:30~20:30	本町	場所:ふれあいセンターびらとり	会議室
2月18日(土)10:00~12:00	振内	場所:振内青少年会館	小会議室
2月18日(土)14:00~16:00	貫気別	場所:貫気別生活館	会議室

* 今回のランコおもて面にある「住民から出た意見」のような、いろいろな意見をお聞かせください。

